

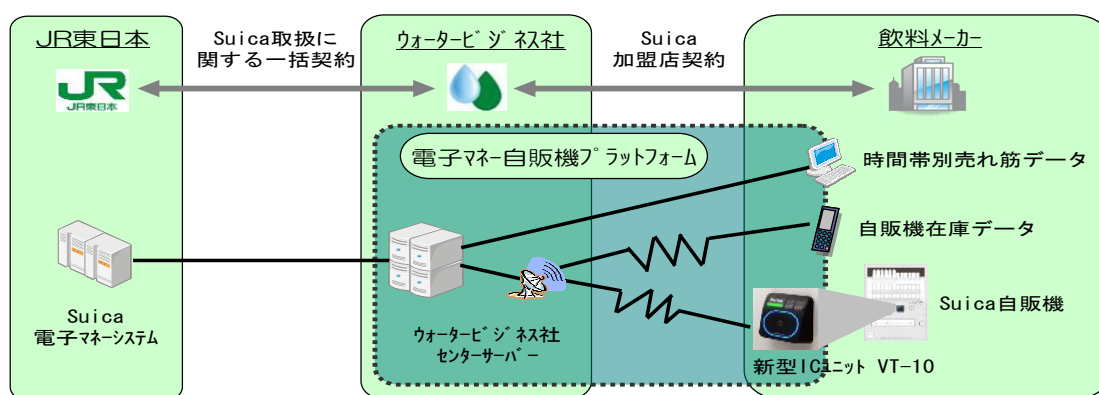
JR 東日本ウォータービジネス “Suica 自販機” をエキナカからマチナカへ！

㈱JR 東日本ウォータービジネス（代表取締役社長：田村修）は、JR 東日本と連携し、自らが構築した「電子マネー自販機プラットフォーム」を通じて、Suica 自販機をマチナカに広げていきます。具体的に、首都圏のマチナカにおいて、12 月下旬から、アサヒ飲料(株)、㈱伊藤園、大塚製薬(株)、キリンビバレッジ(株)、サントリーフーズ(株)（以上 50 音順）の各メーカーの飲料自販機に、Suica の導入を開始します。

（注） Suica は JR 東日本の登録商標です。

1 電子マネー自販機プラットフォーム

「電子マネー自販機プラットフォーム」は、Suica をはじめとする交通系電子マネーに対応するセンターサーバーと IC ユニット で構成される飲料自販機のための新たな仕組みで、Suica 導入のためのシステムインフラや IC ユニット等のハードウェア、売上金精算等を経済的なパッケージにしたものです。



2 JR 東日本ウォータービジネスと Suica 自販機

㈱JR 東日本ウォータービジネスは、エキナカを中心に約 5,500 台の Suica 自販機を展開しており、Suica 対応で支払いがスムーズになり、また「小銭が増えない」こと等で利便性が向上し、売上が増加しました。Suica 決済率も平均 40%弱にまで上昇しています。しかし、飲料自販機は小銭使用の最たる業態であるにも関わらず、マチナカにおける電子マネー対応自販機の普及は進んでおらず、特に首都圏の生活者に欠かせない Suica 対応のマチナカ飲料自販機の普及はこれからの状況です。このため、この「電子マネー自販機プラットフォーム」の構築により、飲料自販機への Suica 導入が加速すると想定しています。

3 Suica で変わる飲料自販機

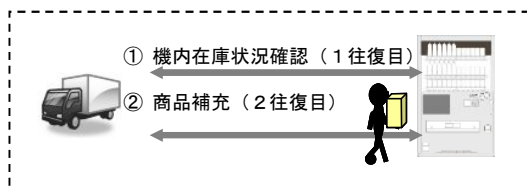
「電子マネー自販機プラットフォーム」は Suica 対応以外にも付加機能を有しています。

まず、「電子マネー自販機プラットフォーム」を構成する新型 IC ユニットは、「POS 機能」を有しています。IC ユニットが集めた POS データは、センターサーバーを通じて、各自販機を管理運営する飲料メーカー等に提供されます。今回、飲料メーカー等は、「電子マネー自販機プラットフォーム」をご採用いただくことで、時間帯別の販売データや、個人情報保護に問題の無い範囲で同一顧客による購買行動（電子マネー利用時）を把握できます。

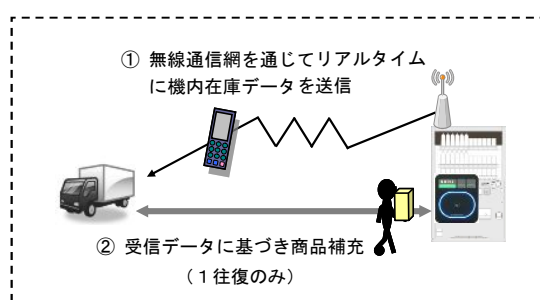
更に、この新型 IC ユニットは、リアルタイムに自販機の在庫データを確認できる「ワンウェイオペレーション機能」を有しています。飲料メーカー等は、各社が自販機の売上管理のために保有するハンディターミナルを「電子マネー自販機プラットフォーム」に対応させれば、遠隔地から通信で自販機内の在庫を確認できます。従来の自販機オペレーション（商品充填作業）では、在庫確認に 1 往復、商品補充に 1 往復の計 2 往復が

必要でしたが、この機能を用いれば、事前の在庫状況確認が省略できるとともに、販売の少ない自販機の場合、商品補充すら省略が可能となり、大幅な効率化も見込めます。

●「通常オペレーション（2往復）」



●「ワンウェイオペレーション（1往復）」



今後、㈱JR東日本ウォータービジネスは、「電子マネー自販機プラットフォーム」を通じて、飲料自販機と Suica の親和性を追及していきます。Suica で変わる飲料自販機にご期待ください。

